

学会トピックス

第47回日本人工臓器学会大会参加印象記

峰 島 三 千 男

東京女子医科大学臨床工学科

標記学術集会在、去る平成21年11月12日(木)～14日(土)、新潟コンベンションセンター朱鷺メッセにおいて盛会裏に挙行された。大会長は林 純一先生(新潟大学大学院医歯学総合研究科呼吸循環外科学分野教授)で、新潟での同学会開催は実に19年ぶりのことであった。近年の日本人工臓器学会ではアフェレシスに関連する演題は残念ながらきわめて少ない傾向が続いていたが、今回は以下に示す2つのアフェレシス関連セッションが組まれた(以下敬称略)。

(1) パネルディスカッション 血液浄化法の選択と適応

司会：斎藤 明(東海大学)

衣笠えり子(昭和大学横浜市北部病院)

- 1) 仲村将高(千葉大学大学院)：劇症肝不全，Septic Shockに対する持続的血液ろ過透析(CHDF)の血液浄化量の強化方法
- 2) 佐藤 隆(名港共立クリニック)：On-line HDF/HFの現状と適応
- 3) 友 雅司(大分大学)：Acetate free biofiltrationの生体適合性(システムからみた可能性)
- 4) 峰島三千男(東京女子医科大学)：DFPP療法の最近の進歩と期待される分離技術
- 5) 平和伸仁(横浜市立大学市民総合医療センター)：吸着療法の適応と選択(LDLアフェレシスおよび白血球系細胞除去療法を中心に)
- 6) 衣笠えり子(昭和大学横浜市北部病院)：単純血漿交換療法(PEX)

いずれも適用と最近の治療条件に関する内容であった。1)については救命率を少しでも改善すべく血液浄化量のさらなる強化が、4)についてはDFPPの変法である、DFサーモ、Plasma Diafiltration等の比較的新しい技術が紹介された。また、5)、6)については現状の適用と問題点について詳しく説明がなされた。

(2) ワークショップ 疾患治療のための血液浄化療法

司会：峰島三千男(東京女子医科大学)

西 慎一(新潟大学)

- 1) 深津敦司(京都大学)：DFPPによるC型肝炎ウィルス除去の方法と有効性
- 2) 岩倉 篤(天理よろづ相談所病院)：活動期感染性心内膜炎に対するエンドトキシン吸着療法の有用性の検討
- 3) 高瀬信弥(福島県立大学)：心臓大血管手術後敗血症およびSIRSへのエンドトキシン吸着(PMX)+CHDF療法早期導入の成績
- 4) 米川元樹(札幌北楡病院)：閉塞性動脈硬化症におけるmodified DFPPの有用性と限界
- 5) 古市賢吾(金沢大学)：白血球除去療法によるネフローゼ症候群の治療
- 6) 長谷川 進(新潟大学)：ABO不適合腎移植における抗体除去療法の有効性と問題点
- 7) 鈴木健司(新潟大学)：難治性潰瘍性大腸炎に対する免疫調整剤を併用した外来血球成分除去療法の経験

著者が司会をさせていただいた本セッションでは、既存の血液浄化技術の新しい適用に関するものや、治療技術の若干の変更により治療効果を高めた内容について報告がなされた。1)については2008年春に新たに保険収載されたDFPPによるC型肝炎ウィルス除去に関し、その治療効果ならびに問題点について報告がなされた。同ウィルスはそのサイズから考えて、二次膜である血漿成分分画膜には完全に阻止されるが、問題は細孔分布をもつ血漿分離膜の透過性と思われた。総灌流流量と治療効果の関連について今後詳細な検討が望まれる。2)については活動期感染性心内膜炎、3)については心臓大血管手術後敗血症に対するPMX

の効果についての報告がなされた。治療のタイミングと dose, さらに他の治療法との組み合わせ効果などが今後少しずつ解明されていくものと思われた。4)については, ASO 患者の末梢循環障害にはコレステロールよりもフィブリノーゲン除去が重要であり, DFPP 変法の 1 つである cryofiltration が有効との内容であった。但し, 感染を引き起こした場合はこの限りではないとの説明も加えられた。5)については難治性ネフローゼ症候群に対する LCAP 療法の効果についての報告であった。同症候群の 1 つである FSGS については 30-50 kD の液性因子が関与との実験的検証もあり, DFPP などの他の血液浄化法や免疫抑制剤による有効性との差違について今後検討されることを望みたい。6)については ABO 不適合移植に対するバイオシンソルブによる抗体除去, 7)については UC に対する LCAP+免疫調整剤の治療効果が報告され

た。

いずれも比較的新しい試みに関する臨床的検証に関するもので, 聴衆からも熱心な質問が多数出されていた。今後, 治療効果のメカニズムの解明ならびにそれにもとづく治療法の確立がなされることを切に希望する。

本大会では, そのほか救急・災害医療における人工臓器の役割や体外循環時の血栓形成など, アフェレシスにも関連した興味深いセッションが多数企画されていた。本学会会員の先生方も, 一度は同学会に参加させることをお勧めする。初めて見聞きするような基盤技術に遭遇することは間違いないと思われる。

第 48 回日本人工臓器学会大会 (大会長: 山家智之, 東北大学加齢医学研究所病態計測制御研究分野教授) は平成 22 年 11 月 18 日(木)~20 日(土), 仙台国際センターで開催される。